

第 2 回需給検討会における委員の主な意見

【長期的看護職員需給見通しの推計について】

- 長期の将来推計が出ることを非常に楽しみにしている。
- 検証可能な説得力のあるデータが出ると思う。
- ナースのレベルを全て均一と考えると、勤務場所の違いに対応できる最高レベルにもっていかないといけないので、看護教育の面からは大きな問題。
- 患者の病態ベースの需要という点では、非常に興味深いものがある。
- 推計する場合、急性期医療を減らす、在院日数の短縮とともに亜急性期ベッドが増える想定もしないといけない。

【第 7 次需給見直し策定にかかる基本的な考え方】

- 前回は、調査内容が多岐にわたっていて、回収率が非常に低い所もあったと聞いているので、できるだけスリムにして、回収率が高くなる項目に絞り込んだらどうか。特に今回は調査期間が非常にタイトなので、そのほうが回収率も上がって、制度の高い結果になるのではないかと。
- 短時間正規職員などについても、きちんと把握した方がいいと思う。
- 医療費適正化計画については、介護報酬、診療報酬がどう変化するかによって、非常に影響を受けるので、見込むのは難しい。
- 実態を把握することが大切、それは回収率を上げることだと思う。
- 平成 22 年度に行うと想定してる都道府県からすると突発的な調査と受け止められるので、必要最小限の調査項目にしてほしい。
- 現実的な需要数の見込み数ができるような設計をしてほしい。

- 厚生労働省が正確に問い合わせに応じないと、回収率は上がらない。
- 作成者については、予算は院長がいえるが、看護部長ではいえない。最終的に調整した数を出さないといけないので、院長がよいのではないか。
- 看護実態を一番病院内で知っている看護管理者が基本的には書いて、将来の見通しを立てるときには、経営全体の方針があると思うので、院長と相談して書くというふうな、記入者の決め方がよいのではないか。
- 専門看護師、認定看護師についても把握すべきではないか。
- いろいろなアンケート調査では自由記載欄があって、それを集めていくことでわからなかったことが浮かび上がることがある。整理は大変だが、やってみてはどうか。
- 離職率を下げるのにはどうしたらいいのかというのがわからないので、今回の調査でヒントが得られるものができればよい。